

令和8年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 理科

改善の重点

- ① 単元全体を見通し、単元や内容のまとまりごとで育成を目指す資質・能力を明確に設定するとともに、問題を科学的に解決しようとする学習活動を構想し、単元の指導と評価の計画を作成すること。
- ② 単元の指導と評価の計画に基づき、児童の学習状況を適切に見取り、指導の改善や資質・能力の育成につなげること。

1 設定理由

小学校理科の目標では、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することが求められている。

右に示す「問題解決の過程」は、問題解決の力の育成を図るための学習の流れの一例を示したものである。学習指導要領には、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が明記されており、4年間を通して計画的に育成していくことが重要である。そのため教師は、学習を単に「問題解決の過程」にあてはめるだけでなく、児童にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にした上で、「問題解決の過程」のどの部分を重視するかを考え、授業を構想する必要がある。児童が理科の見方・考え方を働かせながら「問題解決の過程」を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するような教師による学びのデザインが大切である。このような授業展開は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながるものである。

さらに、育成を目指す資質・能力が確実に身に付いているかを、授業中の発言や活動の様子、記述内容などから適切に見取り、指導方法の工夫・改善へとつなげていくことが求められる。また、1人1台端末の活用にあたっては、単元全体を見通した上で指導の効果が高まる場面を見極め、教師が明確な意図をもって位置付けることで、目指す資質・能力の育成につなげていくことが重要である。



2 研究を進めるにあたって

(1) 実践にあたっては、以下の点に留意すること。

- ① 育成を目指す資質・能力を明確に設定した上で、「問題解決の過程」のどの学習活動を重視するかを考え、単元の指導及び評価の計画を作成すること。その際、単元の導入や終末等において、自然の事物・現象と児童の生活経験とを関係付けるなど、授業での学びと日常生活や社会との関連を図るための手立てを講じること。
- ② 「B おおむね満足できる状況」と判断される児童の具体的な姿を想定した評価規準を設定すること。その際、「C 努力を要する状況」にある児童に対して適切な手立てを講じること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 早わかり！単元計画の作成手順（大分県教育庁義務教育課 Web サイト）
- ③ 理科映像事例集（国立教育政策研究所ウェブサイト）